



Configuration Manager

ほとんどの Packaged CCE 設定は、Unified CCE Web Administration ガジェットで実行します。レガシー Configuration Manager ツールセットで実行される設定は限られています。この項では、Configuration Manager の Explorer ツール、一覧ツール、およびその他のツールと、それらにアクセスする方法、および Packaged CCE にそれらのツールが必要である理由を説明します。

- [Configuration Manager へのアクセス, 1 ページ](#)
- [コールフローに関する Configuration Manager ツール, 2 ページ](#)
- [グローバル値およびアクションに対する Configuration Manager のツール, 6 ページ](#)
- [マルチチャンネル対応の Configuration Manager のツール, 9 ページ](#)
- [スクリプティング対応の Configuration Manager のツール, 12 ページ](#)
- [ユーザアクセスを制御するための Configuration Manager のツール, 13 ページ](#)

Configuration Manager へのアクセス

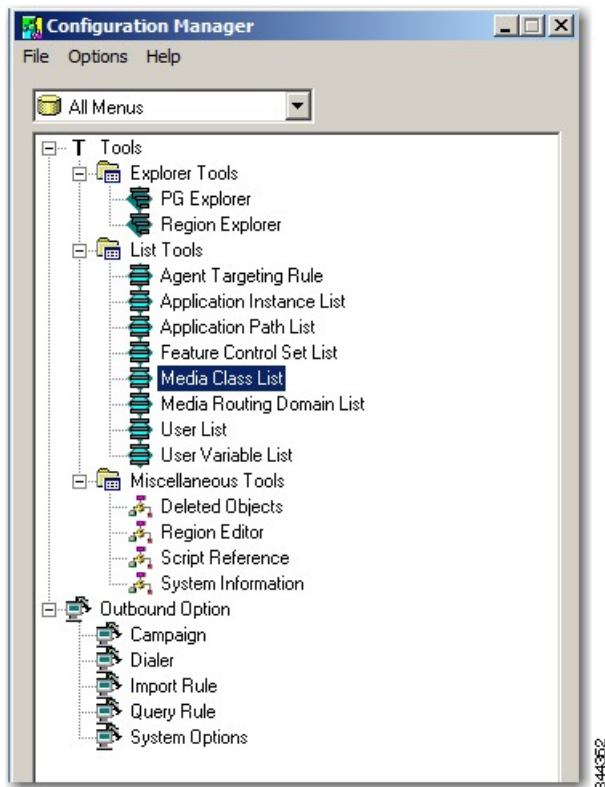
Configuration Manager は、CCE Data Server 仮想マシンにインストールされ、それらの VM コンソールのデスクトップアイコンから開くツールのスイートです。

設定のほとんどは、Packaged CCE の管理ツールから行われますが、一部の設定には Configuration Manager を使用する必要があります。

Configuration Manager へのアクセス方法

- 1 Packaged CCE の VM コンソールを開きます。Packaged CCE の展開でインストールされたいずれかの CCE データ サーバの仮想マシンを選択します。
- 2 [コンソール (Console)] タブをクリックします。
- 3 必要に応じて、データサーバにログインします。
- 4 [すべてのプログラム (All Programs)] > [Cisco Unified CCE ツール (Cisco Unified CCE Tools)] > [Configuration Manager] を選択します。

- 5 実施する必要がある手順に示されたツールのタイプを選択します。次の例は、メディアクラスリストの選択を示しています。



344362

コールフローに関する Configuration Manager ツール

Configuration Manager でこれらのツールにアクセスして、コールフローの円滑化またはトラブルシューティングを行います。

関連トピック

[PG Explorer, \(2 ページ\)](#)

[エージェント ターゲティングルール, \(5 ページ\)](#)

PG Explorer

PG Explorer は、Unified CCE Configuration Manager で [エクスプローラ ツール (Explorer Tools)] の下に表示されます。

ツールを開き、[取得 (Retrieve)] をクリックして、Packaged CCE に設定される 2 つの Peripheral Gateway、Generic_PG および MR_PG を表示します。Generic_PG には、5 つの Peripheral インターフェイス マネージャ (PIM) があります。このうち、1 つが Unified Communications Manager 用で、4 つが音声応答装置 (VRU) 用です。

Select filter data

Optional Filter: None Condition: Value

Save Retrieve Cancel filter changes

Hide legend

(1) PG

(2) Peripheral

Click on an item to edit or view its contents. Use the Add buttons to create new items.

Generic_PG

- CUCM_PG_1
- CVP_PG_1A
- CVP_PG_1B
- CVP_PG_2A
- CVP_PG_2B
- MR_PG

(2) Add Peripheral Delete Multiple...

Logical Controller

Logical controller ID: * 5000 Physical controller ID: * 5000

Name: * Generic_PG

Client type: * Generic

Configuration parameters:

Description:

Physical controller description:

Primary CTI address:

Secondary CTI address:

Reporting Interval

Interval: * 30 Minute

Time Source (change requires simultaneous shutdown of both PG sides)

Use Central Controller Time (Recommended)

Use ACD Time

Skill Group Mask	Routing client	Default route	Peripheral Monitor
Peripheral	Advanced		Agent Distribution
Peripheral ID:	* 5000		
Name:	* CUCM_PG_1		
Peripheral name:	* CUCM_PG_1		
Client type:	* CUCM		
Location:			
Abandoned call wait time:	* 5		
Configuration parameters:			
Call control variable map:			
Default desk settings:	Default_Agent_Desk_Settings		
Peripheral service level type:	* Calculated by Call Center		
Agent Phone Line Control:	* Single Line		
Non ACD Line Impact:	* Available Agent Stays Available		
Description:			

3012849



(注) Packaged CCE: CCE-PAC-M1 展開タイプを保持するには、いずれかの PG を削除したり、他の PG を追加したりしないでください。コンタクトセンターでマルチチャネル（電子メールおよび Web）を使用しない場合でも、MR-PG が必要です。

Peripheral Gateway Explorer にアクセスする理由としては、デフォルトのデスク設定を識別および変更するため、プライマリおよびセカンダリ CTI アドレスを設定するため、および外部 HDS に対するエージェント レポートを有効にするためなどがあります。

関連トピック

[デフォルトのデスク設定の変更, \(3 ページ\)](#)

[エージェント レポートの有効化, \(4 ページ\)](#)

デフォルトのデスク設定の変更

次の手順を実行して、Unified CCE Web Administration ツールに表示されるデフォルトのデスク設定を見つけ、変更してください。

手順

-
- ステップ 1 Configuration Manager から、[ツール (Tools)] > [エクスプローラ ツール (Explorer Tools)] > [PG Explorer] を選択します。
 - ステップ 2 [GenericPG] を選択します。
 - ステップ 3 [CUCM_PG_1] を選択します。
 - ステップ 4 [Peripheral (Peripheral)] タブで、[デフォルトのデスク設定 (Default desk settings)] フィールドを見つけます。ドロップダウンの最初の選択肢は、現在のデフォルトのエージェントデスク設定に対するオプションです。
 - ステップ 5 ドロップダウンから異なるエージェントのデスク設定を選択します。選択した項目がドロップダウンの先頭に移動し、新しいデフォルトのデスク設定になります。
 - ステップ 6 [保存 (Save)] をクリックします。
-

関連トピック

[デスク設定](#)

エージェント レポートの有効化

1 つまたは複数の外部履歴データベース管理およびデータ サーバ (HDS) を使用する場合のみ、この設定を行います。

手順

-
- ステップ 1 Configuration Manager から、[ツール (Tools)] > [エクスプローラ ツール (Explorer Tools)] > [PG Explorer] を選択します。
 - ステップ 2 [取得 (Retrieve)] をクリックします。次に、[GenericPG] を選択します。
 - ステップ 3 [CUCM_PG_1] を選択します。
 - ステップ 4 [エージェントの配信 (Agent Distribution)] タブをクリックします。A 側と B 側にデフォルトで作成された 2 つのディストリビュータが表示されます。
 - ステップ 5 [エージェント レポートを有効にする (Enable agent reporting)] をオンにします。
 - ステップ 6 [新規 (New)] をクリックします。
 - ステップ 7 エージェント待受停止理由コードを報告する場合は、[エージェントのイベント詳細 (Agent event detail)] をオンにします。
 - ステップ 8 [エージェントの履歴データ (Agent historical data)] をオンにして、CUCM Peripheral から外部 HDS への履歴データのフローを有効にします。
 - ステップ 9 2 つめの外部 HDS がある場合は、[新規 (New)] をクリックし、手順 7 と手順 8 を繰り返します。
 - ステップ 10 [保存 (Save)] をクリックします。
-

エージェント ターゲティング ルール

Packaged CCE でコールルーティングを設定するには、1つまたは複数のエージェント ターゲティングルールを作成して、エージェントの内線番号範囲を指定する必要があります。エージェント ターゲティングルールに基づき、ルータがコールをターゲットできない内線番号にエージェントがログインしようとする、Peripheral Gateway によってログイン要求が拒否され、ログイン要求が失敗した理由を含むエラーが返されます。

Peripheral に対して1つまたは複数のルールを定義できます。ただし、各ルールで、同じルーティングクライアントに対して異なるエージェントの内線番号範囲を扱う必要があります。言い換えれば、ルーティングクライアントが Peripheral のターゲットングに使用できる複数のルールが存在する場合、それらのルールに重複する内線番号範囲があってはなりません。

手順

-
- ステップ 1 いずれかの CCE データ サーバから [Unified CCE Administration Manager] > [Configuration Manager] に移動します。
 - ステップ 2 [ツール (Tools)] > [一覧ツール (List Tools)] > [エージェント ターゲティングルール (Agent Targeting Rule)] を選択します。
 - ステップ 3 [取得 (Retrieve)] をクリックします。次に、[追加 (Add)] をクリックします。
 - ステップ 4 [属性 (Attributes)] ダイアログボックスで次の内容を入力します。
 - a) ルールに名前を付けます。
 - b) Peripheral として [CUCM_PG_1] を選択します。
 - c) ルールタイプとして [エージェントの内線番号 (Agent Extension)] を選択します。
 - d) [ルーティングクライアント (Routing client)] パネルで、4つの CVP クライアント (A 側の2つの CVP_PG と B 側の2つの CVP_PG) をすべて選択します。
 - e) [内線番号範囲 (Extension Ranges)] パネルで [追加 (Add)] をクリックし、エージェントの内線番号範囲を入力します。[OK] をクリックします。
 - ステップ 5 [保存 (Save)] をクリックします。
-

次の作業

CCE コールサーバは、PG Explorer ([詳細設定 (Advanced)] タブ) で CUCM_PG_1 に対して [エージェント ターゲティングモード: ルール優先 (Agent targeting mode: Rule Preferred)] が設定されている場合のみ、エージェント ターゲティングルールを使用できます。これはデフォルトの設定です。エージェント ターゲティングルールが作用しない場合、この設定が [ルール優先 (Rule Preferred)] であることを確認してください。

関連トピック

[PG Explorer, \(2 ページ\)](#)

グローバル値およびアクションに対する Configuration Manager のツール

この項では、システム全体のアクションに使用できる Configuration Manager のツールについて説明します。

[システム情報 \(System Information\)](#) , (6 ページ)

[永続的な削除用の Configuration Manager ツール](#), (8 ページ)

システム情報 (System Information)

Configuration Manager の System Information ツールを使用すると、グローバル値を定義できます。

パスワード長の最小値 (Minimum Password Length)

エージェントのパスワード長の最小値を設定するには、次の手順を実行します。

- 1 Configuration Manager を起動します。
- 2 [その他のツール (Miscellaneous Tools)] > [システム情報 (System Information)] を選択します。

- 3 [個人のセキュリティ (Person Security)] パネルで [パスワード長の最小値 (Minimum password length)] フィールドを見つけます。0 ~ 32 の範囲の数を入力してください。
- 4 [保存 (Save)] をクリックします。設定した長さは、エージェントの必須パスワード長になります。

サービスしきい値の長さ (Service Threshold Length)

Call Types ツール内のこのフィールドは、[システム情報 (System Information)] で現在設定されている値にデフォルト設定されます。この値は、発信者がエージェントに接続されるまでキューに留まる秒数です。この値を変更するには、次の手順を実行します。

- 1 Configuration Manager を起動します。
- 2 [その他のツール (Miscellaneous Tools)] > [システム情報 (System Information)] を選択します。
- 3 [Call Type (コールタイプ)] パネルで [サービス レベルのしきい値 (Service level threshold)] フィールドを見つけます。この値は数字です。変更するには、異なる数字を入力します。
- 4 [保存 (Save)] をクリックします。入力する値は、エージェントに接続する前に発信者がキューで待機する、デフォルトの目標秒数になります。

サービス レベル タイプ (Service Level Type)

Call Types ツール内のこのフィールドは、[システム情報 (System Information)] で現在設定されている値にデフォルト設定されます。ここで3つのオプションのいずれかを設定して、システムソフトウェアが放棄呼に対するサービスのサービス レベルを計算する方法を決定します。

- 無視する。つまり、サービス レベルの計算には影響しません。
- マイナスの影響を与える。つまり、サービス レベルしきい値の時間内に回答されたコールだけが、処理済コールとしてカウントされます。
- プラスの影響を与える。つまり、放棄呼はサービス レベルにプラスの影響を与えます。

- 1 Configuration Manager を起動します。
- 2 [その他のツール (Miscellaneous Tools)] > [システム情報 (System Information)] を選択します。
- 3 [コールタイプ (Call Type)] パネル内の [サービス レベルタイプ (Service level type)] ドロップダウンを見つけます。ドロップダウンにはオプションが3つあり、最上部に表示されるオプションが現在のデフォルトです。それを変更するには、別のオプションを選択します。
- 4 [保存 (Save)] をクリックします。選択したオプションが、新しいシステムデフォルトのサービス レベルタイプになります。

システム バケット間隔 (System Bucket Interval)

[コールタイプ (Call Type)] パネル内のこのフィールドは、コール処理アクティビティの取得に使用される時間範囲のセット (「バケット」) を設定します。

ソフトウェアは、1つのシステムバケット間隔が設定された状態でインストールされますが、カスタムバケット間隔を作成した後は、そのいずれかをデフォルトにすることができます。

次の手順を実行します。

- 1 Configuration Manager を起動します。
- 2 [その他のツール (Miscellaneous Tools)] > [システム情報 (System Information)] を選択します。
- 3 [コールタイプ (Call Type)] パネル内の [バケット間隔 (Bucket intervals)] ドロップダウンを見つけます。一覧の最初のオプションが、現在のデフォルトです。このオプションは、Unified CCE Web 管理の [バケット間隔 (Bucket Intervals)] ガジェットにも表示され、ここで変更するまではシステムデフォルトとなります。
- 4 変更するには、ドロップダウンを使用して、異なるバケット間隔を選択します。
- 5 [保存 (Save)] をクリックします。選択したバケット間隔は、ドロップダウンの最初のオプションになり、現在では、新しいシステムデフォルトのバケット間隔になっています。

関連トピック

[バケット間隔](#)

[エージェントの追加](#)

[コールタイプの追加](#)

永続的な削除用の Configuration Manager ツール

一部のオブジェクトは、Unified CCE Administration で「削除済みにマーク」のみされています。それらのオブジェクトは、報告およびレコード保持の目的で、システムに残っています。オブジェクトを永続的に削除するには、次の手順を実行します。

手順

-
- ステップ 1 Configuration Manager を起動します。
 - ステップ 2 [Configuration Manager の使用 (Using the Configuration Manager)] > [削除するオブジェクト (Deleted Objects)] を選択します。
 - ステップ 3 削除するオブジェクトのテーブル名をクリックします。これによって、そのテーブルで削除のマークが付けられたすべてのレコードを表示するパネルが開きます。
 - ステップ 4 1つ、数個、またはすべてのレコードを選択します。
 - ステップ 5 [完全に削除 (Delete Permanently)] をクリックします。
-

マルチチャネル対応の Configuration Manager のツール

この項では、マルチチャネルに適用可能な Configuration Manager のツールについて説明します。マルチチャネルは、Email Interaction Manager (EIM) や Web Interaction Manager (WIM) としても知られる、電子メールや Web チャットのような非音声アプリケーションへのコールのルーティングを指します。

[メディア クラスの一覧 \(Media Class List\) , \(9 ページ\)](#)

[アプリケーションインスタンス リスト, \(11 ページ\)](#)

[アプリケーションパス リスト, \(12 ページ\)](#)

[メディア ルーティング ドメインの一覧 \(Media Routing Domain List\) , \(10 ページ\)](#)

関連トピック

[マルチチャネル サービスの概要](#)

メディア クラスの一覧 (Media Class List)

[メディア クラスの一覧 (Media Class List)]には、次のメディア クラスが表示されます。最初の 4 つは、Packaged CCE ではサポートされません。

- Cisco_Blended_Collaboration
- Cisco_Email
- Cisco_Multi_Session_Chat
- Cisco_Single_Session_Chat
- Cisco_Voice
- CIM_BC
- CIM_EIM
- CIM_OUTBOUND
- CIM_WIM

Cisco_Voice の属性を削除したり、編集したりすることはできません。

CIM_BC、CIM_EIM、CIM_OUTBOUND、および CIM_WIM の属性は削除および編集できます。

メディア クラスを追加できます。

手順

-
- ステップ 1 Configuration Manager を起動し、[ツール (Tools)] > [一覧ツール (List Tools)] > [メディア クラスの一覧 (Media Class List)] に移動します。
 - ステップ 2 [取得 (Retrieve)] をクリックします。
 - ステップ 3 メディア クラスを選択し、その属性を確認または編集します。
 - ステップ 4 必要に応じてメディア クラスを追加または削除します。
 - ステップ 5 設定を保存します。
-

メディアルーティングドメインの一覧 (Media Routing Domain List)

マルチチャネルルーティングを使用する場合は、それらに1つまたは複数のメディアルーティングドメイン (MRD) を設定する必要があります。システムではMRDを使用して、異なるメディアからの要求がどのようにエージェントにルーティングされるかが整理されます。Configuration Manager で MRD を追加した後は、それらの MRD が Dialed Number ツールの [メディアルーティングドメインを選択 (Select Media Routing Domain)] ポップアップ ウィンドウに入力されます。MRD がすでに設定されている場合、このツールにアクセスして [キュー内の最大時間 (Max time in queue)] や [サービス レベルのしきい値 (Service Level Threshold)] などの設定を変更することも必要です。

手順

-
- ステップ 1 Configuration Manager を起動し、[ツール (Tools)] > [一覧ツール (List Tools)] > [メディアルーティングドメインの一覧 (Media Routing Domain List)] に移動します。
 - ステップ 2 [取得 (Retrieve)] をクリックします。デフォルトでは、[Cisco_Voice] が設定されます。
 - ステップ 3 [追加] をクリックします。
 - ステップ 4 MRD の名前を入力します。
 - ステップ 5 [メディアクラス (Media Class)] ドロップダウンメニューから、MRD の目的に応じて [CIM_BC]、[CIM_WIM]、または [CIM_EIM] のいずれかのメディア クラス (または、追加されている場合は

カスタムメディアクラス) を選択します。通常は、メディアクラスごとに1つ以上のMRDを設定します。

- ステップ6 MRDomainIDは、必須の読み取り専用フィールドです。(エントリを保存すると、ID番号が自動的に作成されます)。
- ステップ7 [サービス レベルのしきい値 (Service Level Threshold)]の値は、[スキルグループ](#)によって使用されるシステムデフォルトです。
- ステップ8 必須フィールドに入力します。フィールドの説明については、オンラインヘルプを参照してください。
- ステップ9 設定を保存します。

アプリケーションインスタンスリスト

マルチチャネルルーティングを使用する場合は、電子メールおよび Web アプリケーションから Unified CCE にアクセスできるように、Configuration Manager でアプリケーションインスタンスを設定する必要があります。アプリケーションインスタンスのほか、アプリケーションを識別するアプリケーション ID とアプリケーションキー (パスワード) を定義します。電子メールアプリケーションと Web アプリケーションで同じ情報を入力する必要があります。

手順

- ステップ1 Configuration Manager を起動し、[ツール (Tools)]>[一覧ツール (List Tools)]>[アプリケーションインスタンスの一覧 (Application Instance List)]に移動します。
- ステップ2 [取得 (Retrieve)]をクリックします。次に、[追加 (Add)]をクリックします。
- ステップ3 アプリケーションインスタンスの名前を入力します。
- ステップ4 アプリケーションキーを入力して確認します。
- ステップ5 [アプリケーションタイプ (Application type)]ドロップダウンメニューから[その他 (Other)]を選択します。
- ステップ6 [権限レベル (Permission level)]ドロップダウンメニューから[フル読み取り/書き込み (Full read/write)]を選択します。
- ステップ7 設定を保存します。

次の作業

アプリケーションインスタンスに対するアプリケーションパスを設定します。

関連トピック

[アプリケーションパスリスト, \(12 ページ\)](#)

アプリケーションパス リスト

マルチチャネルルーティングを使用する場合は、アプリケーション インスタンスを Peripheral Gateway (PG) に関連付けるためにアプリケーションパスを設定する必要があります。Packaged CCE の場合、マルチチャネル アプリケーション インスタンスに対する PG は、Generic_PG 内の CUCM_PG になります。

手順

-
- ステップ 1** Configuration Manager を起動し、[ツール (Tools)] > [一覧ツール (List Tools)] > [アプリケーションパスの一覧 (Application Path List)] に移動します。
- ステップ 2** [取得 (Retrieve)] をクリックします。次に、[追加 (Add)] をクリックします。
- ステップ 3** [アプリケーション インスタンス (Application instance)] ドロップダウン メニューから、マルチチャネル用に作成したアプリケーション インスタンスを選択します。
- ステップ 4** [Peripheral Gateway] ドロップダウン メニューから、[Generic_PG] を選択します。
[名前 (Name)] フィールドには、Generic_PG.YourApplicationInstanceName が入力されます。これは変更できます。
- ステップ 5** 任意で説明を入力します。
- ステップ 6** [追加 (Add)] をクリックします。
これによって、[アプリケーションパス メンバー (Application Path Members)] テーブルに行が追加され、デフォルトで最初の Peripheral と最初の MRD が設定されます。
関連付けられた各マルチチャネル MRD のレコードを CUCM_PG_1 Peripheral に追加します。
行内の MRD の選択を変更するには、MRD 列をクリックしてから、行の右側にある矢印をクリックします。それによって、選択可能なすべての MRD のドロップダウン リストが表示されます。選択する MRD をクリックします。
- ステップ 7** 設定を保存します。
-

スクリプティング対応の Configuration Manager のツール

この項では、スクリプティングに適用可能な Configuration Manager のツールについて説明します。

- [スクリプト参照 \(Script Reference\)](#) , (13 ページ)
- [ユーザ変数リスト](#) , (13 ページ)

関連トピック

[Packaged CCE によるスクリプティング](#)

スクリプト参照 (Script Reference)

Script Reference ツールは、どのスクリプトがどのオブジェクトを参照するかを識別するためのインターフェイスです。すべてのターゲット タイプを Packaged CCE に適用できるわけではありません。

このツールにアクセスするには、[Configuration Manager]>[その他のツール (Miscellaneous Tools)]>[スクリプト参照 (Script Reference)]に移動します。

ターゲット タイプを選択し、そのターゲットが参照されるスクリプトを表示します。

ユーザ変数リスト

ユーザ変数は、コールのルーティング用のスクリプティングで使用されます。ユーザ変数を定義した後は、Script Editor Formula Editor を使用して変数にアクセスし、式内の変数を参照できます。

ユーザ変数には、次の処理が可能です。

コール タイプやスキル グループなどのオブジェクト タイプに関連付ける。これによって、システム ソフトウェアは、システム内の該当するタイプの各オブジェクト用に、その変数のインスタンスを維持できます。

固定として識別する (コール ルータを再起動しても値が保持されます)。

非固定として識別する (コール ルータの再起動時に値は保持されません)。

手順

-
- ステップ 1 Configuration Manager を起動して、[ツール (Tools)]>[一覧ツール (List Tools)]>[ユーザ変数の一覧 (User Variable List)]を選択します。
 - ステップ 2 [取得 (Retrieve)]をクリックします。次に、[追加 (Add)]をクリックします。
 - ステップ 3 [属性のプロパティ (Attributes property)]タブに必要な情報を入力します。
[変数名 (Variable name)]、[オブジェクトタイプ (Object type)]、および[データ型 (Data type)]フィールドが必須です。その他のフィールドはすべて任意です。
 - ステップ 4 [保存 (Save)]をクリックします。
-

ユーザ アクセスを制御するための Configuration Manager のツール

Packaged CCE および Unified CCE Configuration Manager へのアクセス制限に使用される 2 つのツールがあり、その両方を使用する必要があります。

関連トピック

[機能制御セットリスト, \(14 ページ\)](#)

[User List ツール, \(15 ページ\)](#)

機能制御セットリスト

このツールを使用して、機能制御セットを作成します。機能制御セットを作成した後は、User List ツールにアクセスしてそのセットをユーザに関連付け、ユーザがアクセスできるツールを決定します。

手順

- ステップ 1** [Configuration Manger] > [一覧ツール (List Tools)] > [機能制御セットの一覧 (Feature Control Set List)] を起動します。
- ステップ 2** [取得 (Retrieve)] をクリックし、[追加 (Add)] をクリックします。
- ステップ 3** 新規の機能制御セットの名前と説明を入力します。
- ステップ 4** 機能セットのアプリケーション名のチェックボックスをオンにして、ツールへのアクセスを確立します。アクセスを拒否するには、チェックボックスをオフのままにします。
[機能制御セットの一覧 (Feature Control Set List)] 上のほとんどのアプリケーション名は、Packaged CCE のツールに対応していません。次の表に、適用されるツールを示します。

有効にする Packaged CCE ツール	[機能制御セットの一覧 (Feature Control Set List)] でオンにするアプリケーション名
エージェント (Agents) (UI および API)	エージェント エクスプローラ (Agent Explorer)
属性 (Attributes) (UI および API)	属性 (Attribute)
デスク設定 (Desk Settings) (UI および API)	エージェント デスク設定の一覧 (Agent Desk Settings List)
プレジジョンキュー (Precision Queues) (UI および API)	プレジジョンキュー (Precision Queue)
スキルグループ (Skill Groups) (UI および API)	スキルグループ エクスプローラ (Skill Group Explorer)
チーム (Teams) (UI および API)	エージェント チームの一覧 (List Agent team)
理由コード (Reason Codes) (UI および API)	理由コードの一覧 (Reason Code List)
バケット間隔 (Bucket Intervals) (UI および API)	バケット間隔の一覧 (Bucket Intervals List)

有効にする Packaged CCE ツール	[機能制御セットの一覧 (Feature Control Set List)]でオンにするアプリケーション名
コールタイプ (Call Types) (UI および API)	コールタイプの一覧 (Call Type List)
ダイヤル番号 (Dialed Numbers) (UI および API)	ダイヤル番号/スクリプトセクタの一覧 (Dialed Number/Script Selector List)
拡張コール変数 (Expanded Call Variables) (UI および API)	拡張コール変数の一覧 (Expanded Call Variable List)
ネットワーク VRU スクリプト (Network VRU Scripts) (UI および API)	ネットワーク VRU スクリプトの一覧 (Network VRU Script List)
一括ジョブ (Bulk Jobs) (UI および API)	ダイヤル番号一括編集 (Dialed Number Bulk Edit) / エージェント一括編集 (Agent Bulk Edit)
展開 (Deployment)、展開の設定 (Configure Deployment)、エージェントトレース (Agent Trace) (UI) 輻輳制御 (Congestion Control)、展開タイプ情報 (Deployment Type Info)、エージェントトレース (Agent Trace) (API)	システム情報 (System Information)

User List ツール

このツールを使用すると、機能制御セットをユーザに関連付けたり、アクセスを読み取り専用で制限したりすることができます。これらは、独立したオプションです。

手順

- ステップ 1** 機能制御セットを割り当てるには、次の手順を実行します。
- [Configuration Manger] > [リスト ツール (List Tools)] > [ユーザの一覧 (User List)] を起動します。
 - [取得 (Retrieve)] をクリックします。
 - 制限するユーザを選択するか、ユーザをリストに追加します。

- d) ドロップダウン リストから機能制御セットを選択します。ユーザは、その機能制御リストでチェックが付けられたアプリケーションにアクセスできます。チェックのないアプリケーションにユーザがアクセスすることはできません。

ステップ 2 「読み取り専用」にアクセスを制限するには、次の手順を実行します。

- a) [Configuration Manger]>[リスト ツール (List Tools)]>[ユーザの一覧 (User List)] を起動します。
- b) [取得 (Retrieve)] をクリックします。
- c) 制限するユーザを選択するか、ユーザをリストに追加します。
- d) [読み取り専用 (Read only)] をオンにします。

(注)

機能制御セットに対する制限はないものの、「読み取り専用」がオンになっているユーザは、すべてのツールにアクセスできますが、ツール内で変更する権限はありません。

機能制御セットに制限があり、「読み取り専用」がオンになっているユーザは、機能制御セットで除外されているツールを表示できません。その他のツールは表示できますが、ツール内での変更はできません。

権限のないツールにアクセスしようとしたユーザは、権限のある最初のツールにリダイレクトされます。
